

令和7年度 国分寺市立第五小学校 学校経営計画

国分寺市立第五小学校 校長 齋藤 晃

1 はじめに

「緑の森に囲まれて、白い校舎に旗高く」と校歌に歌われる自然豊かで落ち着いた環境に恵まれた国分寺市立第五小学校は、昭和38年4月に創立された。地域・保護者・教職員の協力により、令和5年度に開校60周年記念行事を執り行い、今年度は開校62年目となる。

令和7年策定の国分寺市第三次教育ビジョンでは、第二次教育ビジョンを受け、国分寺市教育委員会の教育目標を基本理念に掲げ、それを具現化する「目指す学びのまちの姿」を「誰もが幸せな未来を描くまち、人と人がつながるまち、学びが循環するまち 国分寺」としている。その実現を目指して、「主体的に未来を拓く力の育成」「すべての子どもたちが輝く教育の充実」「共につながり、学び続けるまちの創造」「文化財の保護と次世代への継承」の4つの施策の方向性が示されている。第五小学校は、この教育ビジョンを実現させることができる学校である。これまで保護者や地域の方々の期待に応えるべく教育目標の実現に努力を重ね、文武両道に活躍する輝かしい五小の伝統を築いてきた。

本校は令和2年度から、これまで築き上げてきた学校・保護者・地域の関係を基盤に、国分寺市立第五小学校コミュニティ・スクールとして新しい時代を力強く生き抜く児童の育成に努めてきている。令和5年度には、それまでの実践についてCSフォーラムで市内小中学校と地域に向けて発信した。また令和6年度から国分寺市立全小中学校で「国分寺学」の指導が始まったが、これまで通学路を中心に取り組む地域見守りボランティア活動に支えられながら、保護者・地域の理解と協力のもと継続してきた「赤米づくり」「昔遊び」「地域の施設・商店への見学・取材」等の学習活動は、本校の「国分寺学」における特色ある教育活動となっている。「人と人がつながり、学びが循環するまち」の学校として、地域で育ち地域の一員としての自覚と、将来は地域に貢献しようとする高い志をもった児童をひとりでも多く地域社会に送り出すことを使命とし、特色ある教育の改善と更なる充実を今後より一層図る必要がある。

現在、現代社会が抱える様々な課題の解決に向けた取組が国連を中心に進められている。本校においても教育活動において、これらの課題を身近なこととして捉え、その解決につながる新たな価値観や行動を生み出すことで、社会の変化に対応し持続可能な社会を創造できる「生きる力」を児童に育成する教育を推進しなければならない。さらに、令和3年12月10日に制定された「すべての人を大切にするまち宣言」にある通り、全ての人が個人として尊重され、多様な生き方を相互に認め合う中で、児童の自尊感情を育み自己有用感をもってやり遂げる力を培うこと、特別支援教室拠点校として個に応じた指導を適切に行い、学習活動の充実を多面的に図ること、自他の生命と人格を尊重する心と実践する力を育むことも、本校が教育活動の基盤として大切にしていこうことである。

本校全教職員には第五小学校と五小学区の地域としての歴史と伝統を認識し、子どもたち一人一人に本校児童であることの誇りと自信を醸成しつつ、今後も本校の教育が一層向上充実するよう全力で職務の遂行に努めることが期待されている。教職員は“チーム五小”の一員として自己の職責を自覚し、「誰もが幸せな未来を描くまち、人と人がつながるまち、学びが循環するまち」の学校としての使命を果たすべく協働し、本校の教育の充実と発展を第一の目標とする。

2 めざす学校像

- (1) 全ての児童が楽しく過ごし、主体的に学び活動する学校【成長】
- (2) 教職員が児童の成長にやりがいを感じ、協働して教育活動を創造していく学校【協力】
- (3) 保護者や地域から信頼される学校【信頼】

児童一人一人が自分のよさや可能性に気付き、互いに認め合い、それぞれが幸せで豊かな人生を切り拓き、よりよい社会・持続可能な社会の創り手・支援者になるための資質・能力を育む教育活動を推進する。

また、人と人がつながり、学びが循環する様々な教育活動を、地域社会と共に実践するコミュニティ・スクールの構築とその維持に努める。

3 教育目標

《学校の教育目標》

◎本年度重点目標

元気な子	健康な心と体をもつ児童の育成
やりとげる子	協力して最後まで頑張る実践力のある児童の育成
◎考える子	すすんで学び、深く考え、行動できる児童の育成
思いやりのある子	互いに理解し合い協力し合って豊かに生きていく児童の育成

4 目指す教職員

(1) 児童、保護者、地域の方から信頼される教職員

- ① 教育公務員としての自覚をもち、サービスを遵守し秩序ある行動を行う。
- ② 目的や思いをもって教育活動を展開し、情報発信や説明責任を果たす。
- ③ すすんで保護者や地域の方々にあいさつを行うなど、誠意と感謝をもって対応する。

(2) 教育への情熱、創意工夫と向上心をもつ教職員

- ① 日々の授業や職務を常に自己評価し、研鑽に励み、評価に基づき改善を図る。
- ② 前例踏襲ではなく、よりよいものを創造する意識をもって職務にあたる。
- ③ 児童理解に努め、児童一人一人の力を伸ばす指導を行い、児童の変容・成長を喜び、児童・保護者と感動を共有する。

(3) 組織の一員として学校運営に参画できる教職員

- ① 職種・職層に応じて課題発見に努め、課題解決への提言や取組を行う。
- ② 各委員会・各部会の委員長・部長はリーダーシップを、成員はフォロワーシップを発揮し、全教職員が学校運営に参画する意識と同僚を尊重する気持ちを持ち、有機的・組織的な取組を行う。
- ③ 教職員相互が報告・連絡・相談・記録、円滑なコミュニケーションを行い、組織として問題解決にあたり、学校力を高める。
- ④ 各教職員は互いの仕事を尊重し合い、お互いの心身の健康とワークライフバランスを考えながら勤務する。

5 中期的目標と方策

「めざす学校像」と《学校の教育目標》を鑑み以下の3点を中期目標とする。

本年度の重点目標「考える子」を中心に、進んで学び、深く考え、行動できる子どもの育成を目指す。

中期的目標	目標達成に向けての中期的方策
(1) 考え、豊かに表現し、実践できる力を育成する。 学校は、保護者・地域と連携して児童一人一人が意欲的に学習活動に取り組むことができるよう、個性や習熟度に応じた指導の工夫を行い、「学	○発達段階に応じた学び方を指導し“主体的に学ぶ意欲”を引き出し、「学びに向かう力」を育む。 ○基礎的・基本的学習内容を身に付ける学習を一人一人に定着させる。 ○家庭・地域と連携して、学習活動の充実と学習及び運動習慣の定着を図る。

びに向かう力」を育み、自己実現を図ることができる資質や能力を育てる。	○言語活動を楽しむ体験を通して豊かに表現し、学んだことを生かして実践できる力を育てる。 ○学習指導要領及び年間指導計画に基づいて計画的に指導し、客観性と信頼性ある評価を行う。
（２）地域社会との連携を深めた教育活動を展開する。 児童の人間性は、学校・家庭・地域社会でのあらゆる活動の中で培われる。学校は、地域のコミュニティセンターとして教育情報の積極的な発信に努め、“地域ぐるみの危機管理意識”を醸成する。また、「してもらう」側から保護者・地域と「共に成す」協働することで児童が健やかに成長する教育活動を工夫できるシステムの構築を推進する。	○コミュニティ・スクール（CS）協議会・コーディネーター部会とPTAを中心に意見を集約し、地域の期待に応える学校づくりや、地域と連携して実践を重ねている教育活動を発展的に定着させるシステムの構築を推進する。 ○地域の自治会や防災会等と連携して学校及び地域の防犯・防災意識の高揚を図る。 ○地域の特色を生かした「国分寺学」の実践について小・中連携教育を通して共に検討し推進する。 ○特別支援教室拠点校として、特別支援教育に関する教職員の理解を深め、理解啓発活動を推進する。 ○全教職員一人一人が危機意識を高くもち、問題行動への対応や健康・安全に関する課題を看過せず報告・連絡・相談を行い、保護者や関係諸機関と連携し、組織的かつ迅速・的確な初期対応を行う。 ○70周年に向け、開校60周年を記念した行事等の作成資料・データの保存等に努める。
（３）人権尊重の精神を育成し、豊かな心を育てる教育を充実する。 学校は、保護者・地域と連携して一人一人の児童が尊重され、いじめや暴力、差別、偏見のない人権尊重の精神に貫かれた学校、学年、学級づくりを推進する。	○規範を尊重し、思いやりと相互の共感・信頼に基づく温かい学校、学年、学級をつくり、豊かなかわりを育む。 ○道徳科を要として多様な価値観や自他のよさに気付いて自尊感情を高め思いやりの心を育てる。 ○日々の挨拶や言葉遣いの指導を学校・家庭・地域のいずれにおいても行うことを通して、言語環境を整え、場に応じた適切な態度・言動で人とかわることができる児童を育成する。

6 今年度の取組目標と方策

(1) 考え、豊かに表現し、実践できる力を育成する。

《本年度の取組目標》	《目標実現のための具体的方策》
◎考え、豊かに表現する力を育てる教育の充実 ○持続可能な社会の創造・開発を進めるために必要な知識や技能、思考力、判断力、表現力等を育成する活動の充実を図る。 ○情報活用能力を育成するための活動を充実させる。 ○豊かな表現力と実践できる力を育成する。 ○読書を含めて図書資料を用いた学習活動の充実を図る。 ○基礎学力の確実な定着を図り「学びに向かう力」を育成する。 ○基礎体力の確実な定着を図り、運動への意欲を高める。	○地域に親しみ、地域に学び、地域を考え、発信し、働きかける「国分寺学」を通して「人と人がつながるまち、学びが循環するまち」の子どもを育てる。 ○コミュニティ・スクールの機能を生かし、「国分寺学」や ESD の視点で地域教材の開発や地域人材の活用を図る。 ○発達段階に合わせて ICT を有効に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点から全教員が授業改善を図る。 ○既習事項、GIGA 端末、図書資料、新聞等を課題解決に活用する等、情報活用能力の一層の伸長を図るとともに、協働的な学びを通して思考力、判断力、表現力等を育成する。 ○4 年生 3 学期から 5 年生 2 学期末にかけて、週 1 回新聞記事を読み、自分の考えを書く活動や新聞づくり等に取り組む。 ○地域の図書館・学校司書、保護者・地域と連携した読書習慣の定着を図る。また、図書館の情報センターとしての機能活用を図る。 ○東京ベーシックドリルを活用し児童にとって前学年までの基礎的・基本的な学習内容について、確実な定着を図る。また宿題等、家庭学習の指導を通して反復学習など児童が自分に合った学習方法を身に付けさせる。 ○学習成果物には赤ペンを入れ、児童の努力を認め成果や課題等適切な評価を丁寧に伝え、達成感を味わわせ、学ぶ意欲を育てる。 ○教科担任制の導入の趣旨を生かし、学年内・外での交換授業を積極的に行い、担任以外も学級に関わる機会を増やす。 ○体力調査の考察をもとに、体育指導の改善や、休み時間の外遊び奨励等「一学級一取組」を推進し、運動の楽しさを味わわせ、体力向上を図る。 ○春、秋に 3 年生以上の学年で 50m 走の記録を計測し、基礎的基本的な学力として体力への関心向上を図る。

(2) 地域社会との連携を深めた教育活動を展開する。

《本年度の取組目標》	《目標実現のための具体的方策》
◎保護者・地域と連携した学習や活動の開発 ○保護者・地域の情報を生かし、児童が地域を知り、地域のためにできる学習活動を模索し、開発する。 ○地域・保護者と協力して周年行事・防災に対する組織的な対応を構築する。 ○小・中連携教育の推進を図り、各教科等において授業改善を進め、学力の向上を図る。 ○巡回校と連携し、特別支援教室における教育活動及び、校内での特別支援教育の充実を図る。 ○学校は分かりやすく積極的な情報発信をする。 ○学習や生活の様子を発信し、家庭との共通理解を推進する。	○コミュニティ・スクール協議会等の意見を生かして、地域の期待に応え連携を図る教育活動の発展的継続を推進する。活動ごとに引き継ぎ資料を作成し、地域とも共有する。特に、児童が国分寺市という地域を知り、好きになること、愛校心をもつことが活動の根底を支えるようにする。 ○児童が、地域の活動に積極的に参加できるよう地域・保護者に対して協力を求め、双方向の情報の提供を行う。教員も地域行事に参加し、「地域の一員」としての自覚をもつ。 ○地域の自治会や防災会等と協力して、防犯・防災に対する対応力を育成する。 ○地域の自然や史跡の保全団体と協力し児童に地域の環境保全や歴史遺産への関心を高める体験活動を行う。また、地域の人々などと触れ合う学習を通し、多様な価値観や生き方に触れる機会をつくる。 ○小・中連携事業として一中学区小中学校において「国分寺学」の研究を進めるとともに、授業改善等を行い、児童の学力向上を目指す。 ○地域の保育園、幼稚園、子ども園との連携を通して「架け橋期」の滑らかな接続と主体的学びの理念の共有を実現する。 ○教職員の共通理解を必要とする児童への支援について情報収集や研修内容の充実を図り、実態に応じて理解教育を推進する。また、必要に応じて保護者・児童・地域への情報提供を行い、特別支援教室への理解と巡回指導内容の充実を図る。 ○ブログや紙面、スクールメール等それぞれの発信手段の良さを組み合わせて、受信者側の視点に立って運用し、意図的・計画的な情報発信を行う。 ○学習や生活状況についての情報を積極的に発信し、家庭との連携を強化する。

(3) 人権尊重の精神を育成し、豊かな心を育てる教育を充実する。

《本年度の取組目標》	《目標実現のための具体的方策》
◎豊かな心を育てる教育の充実 ○子どもたちが安心して楽しく通うことのできる学校を実現する。 ○自尊感情の向上を図る。 ○学校や学級への帰属意識を高める。	○「五小スタンダード」や学校の約束「五小の子」を基本にいじめ防止、情報モラル教育を含めた予防的生活指導を進める。 ○「自分を大切に 友だちを大切に 一人一人を大切に 国分寺を大切に」を五小の合言葉に、互いのよさを認め温かい声掛けのできる学級づくりを行う。都の人権教育プログラムを活用した「人権教育ショート研修」年3回以上実施する。 ○学校教育全体を通しての道徳教育に継続して取り組む。学年ごとに学習のキーワードとなった言葉を「道徳科の記録」として校舎内の壁面に掲示する。 ○「国分寺市立第五小学校いじめ防止等のための基本方針」に基づいた教育活動を徹底し、年間3回の研修の成果を生かしていじめの未然防止、早期発見、早期解決を実践する。

	○避難訓練では、「第五小学校防災マニュアル」を活用し、学校組織の実践的な危機対応力を高めるとともに、児童にも自らの体や命を自分で守ることのできる力を身に付けさせる。 ○特別支援教室せんだんの拠点校として、せんだん教員による全学年の児童・保護者への理解教育の実施と、学年別担当制によるサポートの実施を通し多様性の理解推進と啓発を行う。 ○校内委員会や特別支援コーディネーターにより他機関との連携を充実させる。 ○クラブ活動や児童会活動、縦割り班活動等の異学年活動を通して学校や学年学級への帰属意識を高めながら交流を深め、他を思いやる気持ちを育む。 ○近隣の保育園、幼稚園、子ども園との交流や連携により全学年で「架け橋期」やスタートカリキュラムの理念を理解し、児童の成長や学びのファシリテーターとして指導に当たり、児童の自信や自己肯定感を育む。 ○保護者・地域と連携し、学校・家庭・地域での適切な言葉遣いと挨拶のできる環境を整え、実践力を育てる。
--	---

五小スタンダード

落ち着いて学べる教室環境を整えるために、全学年において《五小スタンダード》に基づき学習や学校生活のルールを徹底を図る。

《五小スタンダード》
① 学習規律を徹底させる。 ※「はい・立つ・です」 ② 本時の流れが視覚的によく分かる板書計画をたて、どの時間も「めあて」と「まとめ」を明示する。 ③ 視覚的に落ち着いて学習に集中できる教室環境を整える。 ※教室前方面には教育目標と学年目標、前方右側には「話し合いのルール」（「声のもののさし」・ハンドサイン・話型）のみを掲示する。 ※学級目標は教室側面、または背後面に掲示する。 ④ 生活規律を徹底させる。 ※気持ちよい挨拶 ※廊下の安全歩行※後片付け（靴・掃除道具・廊下物かけ） ⑤ 家庭と連携して学年発達段階に応じた毎日の家庭学習（10分×学年）と運動習慣を定着させる。 ⑥ 「危機のサイン」を見逃さない。「報告→連絡→相談→報告」を確実に行う。 ⑦ 家庭・地域との連携を密にし、課題は組織で対応する。自分一人で抱え込まない。

校内研究について

令和3年度はコロナ禍の生活上の制約の中、ESD 及び SDGs についての研究を行い、持続可能な社会の創り手を育成するための指導計画としてのESDカレンダーを作成した。生活科や総合的な学習の時間を中心にして取り組んだ、児童の学ぶ心に火をつける具体的な事例・手立てを工夫してきた実践とESDカレンダーも、「国分寺学」の研究に生かすことができる。

令和4年度からの校内研究は、これまでのNIEや図書資料・GIGAスクール構想による1人1台のGIGA端末活用を十分に活用できる情報活用能力を基礎から伸ばすことをねらいとして、国語科を中心に取り組み、その力を育てることができる指導力・授業力を教員一人一人に養う研究としてきた。「国分寺学」においても、は児童に大いに発揮させたい力であり、それを指導する力も教員に求められる。

令和6年度の校内研究は、「国分寺学」に取り組んだ。令和4年までの3年間の研究で培った情報活用能力を育てる指導については、「国分寺学」において課題を自ら設定し、解決の仕方や調べ方を工夫し、まとめていく過程において生かされることとなった。年間で各学年と専科、計7回の研究授業を実施し、これまで保護者・地域の理解と協力のもと、地域の人材や教材を活用し継続してきた赤米づくり、昔遊び、地域の施設・商店への見学・取材等の学習活動を、「国分寺学」の視点からとらえ直し、その趣旨に基づき学習活動の再構成を行った。成果と課題を整理し令和7年度からの「国分寺学」の指導に生かし、より一層効果的な学習活動を、保護者・地域・コミュニティ・スクール協議会の理解や協力を得ながら実施していく。

令和7年度の校内研究は、学習指導要領解説に基づく「主体的・対話的で深い学び」の視点における授業改善や「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の実現をねらいとして、体育科の指導について基礎から研究に取り組む。この研究の成果は、日々実施される他教科の指導にも大きく影響を与え、一人一人の教員が指導の在り方を見直す大きなきっかけとなることが期待される。